

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

評価結果ダイジェスト

▼全体の評価講評

▼サービス分析結果

▼利用者調査結果

▼事業者のコメント

平成19年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

事業所名称	都学園
評価機関名称	特定非営利活動法人 医師団が支える在宅ケア推進ネットワーク
評価者	修了者No.H0202121 修了者No.H0405009 修了者No.H0404070 修了者No.H0601024 修了者No.H0304034
評価実施期間	2007年4月9日～2007年7月23日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- ・ 障害者福祉に対する熱い情熱が現在の施設の健全経営の基礎をなしている
- ・ 利用者の意思決定を尊重した多様な自立生活への支援
- ・ 利用者と職員が家族のような楽しい食事の状況

✔さらなる改善が望まれる点

- ・ 職員の能力向上と業務の一定化に向けての取組み
- ・ 利用者、職員、経営の三位一体で障害者自立支援への改善に向けた取り組みへ
- ・ 利用者の地域生活への移行対策を

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画をいかしながら、利用者に合った自立(自律)生活を送るための支援を行っている	A+
【講評】 詳細はこちら	
・ ①個別支援計画に基づいた支援がなされていることが、個別支援記録・生活宿直日誌に記... ・ ②寮内に連絡事項や手洗いう洗いの手順等の情報が写真入りやルビつきで掲示されている。買い物... ・ ③対人関係のアドバイスは、利用者間にトラブルが起きた場合や必要に応じて行なうのは...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
・ ①日中活動は個別の支援計画に基づき、利用者の特性に応じ8つの作業班の活動や多種類... ・ ②利用者の高齢化に伴い、活動環境に配慮した支援がなされている。作業班の一つは、比... ・ ③施設内での様々な活動の他にも、施設外での利用者の活動の場も多く取り入れている。...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら	
・ ①利用者や職員の希望をもとに、隣接する同法人の他施設の3人の栄養士と連携し、相談... ・ ②食事の時間は決まっているが、食べるのが遅めの人や食の細い人は、他の人より早めに... ・ ③「利用者と職員は家族のように」の思いのもと、配膳を利用者と職員が一緒に行なって...	
4. 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上で必要な支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら	
・ ①日常生活での食事・排泄・衣類の着脱・口腔ケア・移動等の介助は、定期的なアセスメ...	

- ・②歯磨きチューブのしぼり出しや下着の交換・洗濯、私物整理、布団敷きなどの日常の...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・①年2回の定期健康診断、年1回の歯科検診、月に一度の内科の来園診察、定期通院を実...
- ・②服薬管理は看護師が行い、その日の担当職員により投与されている。投薬確認表には投...
- ・③各寮の宿直職員の他に、隣接する法人管理事務所にも管理宿直者が配置されており、夜...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・①年間の行事として、お花見・太平台祭り・秋季大運動会・餅つき・節分・家族旅行・ク...
- ・②毎週月曜日のクラブ活動は、和太鼓・ハンドベル演奏・卓球・自然環境の良さを活かし...
- ・③お祭りや運動会には利用者の意見を取り入れ、その意見に沿った形で実施できるよう企...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・①利用者本人の希望により、日帰り帰省が実施され好評である。また、寮内に公衆電話が...
- ・②利用者の日常の様子や施設の現況は、年3回発行される広報誌「太平台」や帰省時連絡...
- ・③毎年1回、利用者と職員の全員・利用者家族20～30名の参加による1泊旅行を行な...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・①現在2名の利用者が、地元の食品関係の作業など施設外実習をしている。また、敷地内...
- ・②職員の9割が施設の所在地である地元の出身で、地域の情報をいち早く収集し、利用者...

評点の内容
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の
順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
40/70

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 食事の時間は楽しみのなっているか	97.0%	どちらともいえない:2.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
2. 日常生活には自由度があるか	77.0%	20.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:2.0%
3. 活動は楽しいか	92.0%	5.0%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:2.0%
4. 利用者は必要なときに支援を受けているか	75.0%	17.0%	5.0%	いいえ:2.0%
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	72.0%	12.0%	7.0%	7.0%
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	75.0%	20.0%	いいえ:2.0%	無回答・非該当:2.0%
7. 職員の対応は丁寧か	72.0%	17.0%	7.0%	無回答・非該当:2.0%
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか	75.0%	7.0%	5.0%	12.0%
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか	70.0%	10.0%	10.0%	10.0%
10. 【過去1年以内に利用を開始				

し、利用前の説明を受けた方に】サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	はい:0.0% どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
11. 不満や要望を事業所(施設)に言いやすいか	67.0% 10.0% 17.0% 5.0%
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	67.0% 10.0% 7.0% 15.0%
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	50.0% 7.0% 30.0% 12.0%

はい
 どちらともいえない
 いいえ
 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

全体の評価講評

▼全体の評価講評

▼コメント

平成19年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

事業所名称	都学園
評価機関名称	特定非営利活動法人 医師団が支える在宅ケア推進ネットワーク
評価者	修了者No.H0202121 修了者No.H0405009 修了者No.H0404070 修了者No.H0601024 修了者No.H0304034
評価実施期間	2007年4月9日～2007年7月23日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

● 障害者福祉に対する熱い情熱が現在の施設の健全経営の基礎をなしている

当施設が約40年にわたり、安定した経営がなされてきた経緯は、創業者の創設以来の障害者福祉に対する熱い情熱と強固なまでのリーダーシップと気風が歴代引き継がれてきた結果であろう。利用者の人権を尊重し、主体性を重んじ、生活行動の自立に向けた支援活動の基礎となっており、職員の行動基準となっている。厳しいなかに「和」を感じる。

● 利用者の意思決定を尊重した多様な自立生活への支援

日中は、8つの作業班活動と多種類のクラブ活動が行なわれている。常時モニタリングによる個別支援計画が行なわれ、利用者の自立に向けた支援が行なわれている。作業班の活動成果である野菜類は給食材料として自家消費され、また、焼き物、手芸品、手づくりパンなどは保護者会のバザーで販売されている。クラブ活動で行なわれている和太鼓やハンドベルは地元のお祭りや老人ホームへの慰問で披露され、利用者の励みにもなっている。さらに、法人が続けている社会体験参加費用の一部支援は利用者の自立に向けた活動として先駆的な取り組みといえる。

● 利用者と職員が家族のような楽しい食事の状況

「家族のように」という思いのもと、配膳・片付けは職員と利用者が一緒に行い、食事は職員も利用者と一緒に食べている。単にお盆に盛られた食事を配るのでなく、当番利用者が名前と個々の利用者の注意事項(納豆禁とかご飯の小盛など)が書かれたビニールテープが貼られているテーブルに一つずつ、ほぼ間違いなく配膳していた。利用者にとって、職員と一緒に配膳しながら一緒に食事をすることに楽しみと意義を感じている様子がみられた。毎食事時の利用者と職員の協働により、喜びと信頼関係が築かれ評価できる。

✔さらなる改善が望まれる点

● 職員の能力向上と業務の一定化に向けての取り組み

資格取得や外部研修は積極的に薦められているが、職員の知識や技術向上につながっていないようだ。また、職員のサービスについての具体的なチェック機能や、マニュアルによっては一般的なものとどまっているものもみられる。職員のより良いサービス提供に関する意識の強さは十分感じられるので、今後、内部研修の充実や活発な委員会活動の推奨などにより、さらなる職員の資質向上に向けての取り組みとマニュアル内容の充実が望まれる。

● 利用者、職員、経営の三位一体で障害者自立支援への改善に向けた取り組みへ

利用者調査からも、利用者は日々の活動に満足しており、明日への目標や計画は希薄のようである。自立支援に向けた訓練をより効果的に進めるためにも、利用者、家族、職員、施設が一体となって実践的な自立生活支援方を組成し、同じ目標意識で日常支援することが望まれる。それには、まず、相互の良いコミュニケーションシステムを構築することが解決方法の一つと考えられる。利用者、家族を含む施設全員での風通しのよいコミュニケーションの場を作り、実践に臨まれることを期待したい。

● 利用者の地域生活への移行対策を

利用者調査からはのびのびした日常生活を送っていることがうかがえ、自立への訓練はいろいろ実施されているが利用者の関心は薄そうである。将来、地域社会の一員として自立していけるよう具体的な生活支援策をたて施設全体で取り組んでいくとともに施設のPR、専門的ノウハウや施設の開放、ボランティアの積極的な受け入れなど、近隣地域との協働に向けた積極的な対応が望まれる。

コメント

事前に施設側と評価の進め方、スケジュールについて協議した。経営層への説明のほか、職員への説明は交替時を利用して2回行い、目的、シートの記入要領、鍵付き回収箱による回収等を徹底し全職員から回答を得た。利用者調査は始めてなので刺激しないように施設側に説明と意思疎通が可能な利用者を選んで頂き、調査当日は会議室で他の人との会話がわからないような場所設定を行い、利用者の状態を考慮して実施した。訪問時には第三者性を考慮しつつ、複数回の見学と聞き取りを行い利用者の生活振りや職員の活動状況を観察し、現場の状況把握に努めた。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方

福祉サービス第三者評価情報

組織マネジメント分析結果

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ１～７に関する活動成果

平成19年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

事業所名称	都学園
評価機関名称	特定非営利活動法人 医師団が支える在宅ケア推進ネットワーク
事業評価実施期間	2007年5月14日～2007年7月23日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	B
【講評】 詳細はこちら	
①目指す理念・ビジョンは事務所をはじめ各所に明示されている。理念・方針は、19年... ②経営者のリーダーシップと率先垂範が確実に発揮されている。施設長をはじめ、経営者... ③さらなる重要案件の明確な周知決定が望まれる。重要案件は法人内園長会等で協議・決...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	B
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	B
【講評】 詳細はこちら	
①福祉サービスの理念と責任範囲は明確に表示されている。法人としての使命、即ち、6... ②地域社会に対する連携で、施設の専門性と機能をより有効に使い、参画することが望ま... ③ボランティアの受け入れ体制は概ね整備されている。主任格の専門担当者が責任を持って...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	B
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】 詳細はこちら	
①苦情解決制度が整備され、その取り組みが行われている。苦情相談担当者のカラーの顔... ②利用者意向の把握と分析・活用が望まれる嗜好調査など実施されているが、利用者一人...	

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A ⁺
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	B
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	B
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら	
①実践的な事業計画が策定されている。19年度事業計画書の中で、主要目標として3～… ②利用者本位の安全性への取り組みが新しい安心を生んでいる。現在、防火訓練は消防署… ③リスクマネジメント対応の強化が望まれる。利用者の安全確保、一般的ナリスクに対す…	

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら	
①職員像と人事制度と人員配置を配慮した組織力と運営力のバランスの良さがうかがえる… ②人材育成・研修参加の職員の質向上への積極的な方針が顕著に見られる。本年度より職… ③職員の力を組織に発揮させるためのシステムがある。随時に園内研究発表会があり、職…	

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら	
①情報の重要性和機密性のアセスメント分析がなされている。情報の分類は本部事務局で… ②福祉サービスの「個人情報保護法」ガイドラインを明示している。一般職員の「個人情…	

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
施設の老朽化による新施設の建設が進行中（平成20年4月完成）である。これを契機に…	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点

1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
障害者自立支援法の完全施行に向けた勉強会が開催され、職員全員に自立支援に関する説...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
今年度よりパソコンソフトを導入し、利用者管理システムが稼動した。各職員事務室での...	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
各種行事等の超勤手当の見直しや給食材料購入時期の調整等により、出費を極力控えた...	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
利用者の日中活動の一環として、パン教室の開設や太鼓・ハンドベルの稽古、老人ホーム...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報

サービス分析結果

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成19年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

事業所名称	都学園
評価機関名称	特定非営利活動法人 医師団が支える在宅ケア推進ネットワーク
事業評価実施期間	2007年5月14日～2007年7月23日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】詳細はこちら ①都学園のサービス情報は、ホームページ・パンフレット・広報誌を通して提供されてい... ②ホームページでは、法人をはじめ施設の運営方針・施設の目的、班別作業、クラブ活動... ③施設の利用を目的とする電話の問合せや見学は随時受け付けており、施設長もしくは支... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
【講評】詳細はこちら ①希望者には、入居前に希望の日数や回数(施設の予定とすり合わせのうえ)の体験入居... ②利用開始直後の1ヶ月間は重点的に観察期間としている。特に利用開始後1週間は、個... ③高齢での疾病により老人保健施設等、他施設への移行にあたっては、利用者本人や家族... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】詳細はこちら ①今年度よりアセスメント用パソコンソフトを導入し、利用者個人の心身の状態や生活状... ②利用者の日々の活動状況や生活の様子は生活宿直日誌や個別支援記録に記載されている... ③毎朝の職員朝会は、座席で行い、落ち着いた雰囲気の中でしっかりと申し送られてい... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】詳細はこちら ①事業所の個人情報保護方針が法人のホームページに掲載されている。また、ホームペー... ②日常の支援においては、同性支援を行い、高齢によりポータブルトイレの利用者には衝... ③日々の班活動やクラブ活動の当日の変更・希望や、まれに静かな中での食事を言い出し... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	B
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	B
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】詳細はこちら ①各種のマニュアルは、各寮の職員室に常備され活用されている。各寮の業務マニュアル... ②職員の資質向上のため、外部研修参加や資格取得を積極的に薦めている。ただ、外部研...	

- ③ヒヤリ・ハット事例や事故事例は、事故防止委員会で検討されている。検討内容・今後...

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画をいかしながら、利用者に合った自立（自律）生活を送るための支援を行っている	A+
【講評】詳細はこちら ● ①個別支援計画に基づいた支援がなされていることが、個別支援記録・生活宿直日誌に記... ● ②寮内に連絡事項や手洗い手順等の情報が写真入りやルビつきで掲示されている。買い物... ● ③対人関係のアドバイスは、利用者間にトラブルが起きた場合や必要に応じて行なうのは...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ● ①日中活動は個別の支援計画に基づき、利用者の特性に応じ8つの作業班の活動や多種類... ● ②利用者の高齢化に伴い、活動環境に配慮した支援がなされている。作業班の一つは、比... ● ③施設内での様々な活動の他にも、施設外での利用者の活動の場も多く取り入れている。...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】詳細はこちら ● ①利用者や職員の希望をもとに、隣接する同法人の他施設の3人の栄養士と連携し、相談... ● ②食事の時間は決まっているが、食べるのが遅めの人や食の細い人は、他の人より早めに... ● ③「利用者と職員は家族のように」の思いのもと、配膳を利用者と職員が一緒に行なって...	
4. 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ● ①日常生活での食事・排泄・衣類の着脱・口腔ケア・移動等の介助は、定期的なアセスメ... ● ②歯磨きチューブのしぼり出しや下着の交換・洗濯、私物整理、布団敷きなどの日常の...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】詳細はこちら ● ①年2回の定期健康診断、年1回の歯科検診、月に一度の内科の来園診察、定期通院を実... ● ②服薬管理は看護師が行い、その日の担当職員により投与されている。投薬確認表には投... ● ③各寮の宿直職員の他に、隣接する法人管理事務所にも管理宿直者が配置されており、夜...	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】詳細はこちら ● ①年間の行事として、お花見・太平台祭り・秋季大運動会・餅つき・節分・家族旅行・ク... ● ②毎週月曜日のクラブ活動は、和太鼓・ハンドベル演奏・卓球・自然環境の良さを活かし... ● ③お祭りや運動会には利用者の意見を取り入れ、その意見に沿った形で実施できるよう企...	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら ● ①利用者本人の希望により、日帰り帰省が実施され好評である。また、寮内に公衆電話が... ● ②利用者の日常の様子や施設の現況は、年3回発行される広報誌「太平台」や帰省時連絡... ● ③毎年1回、利用者と職員の全員・利用者家族20～30名の参加による1泊旅行を行な...	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】詳細はこちら ● ①現在2名の利用者が、地元の食品関係の作業など施設外実習をしている。また、敷地内... ● ②職員の9割が施設の所在地である地元の出身で、地域の情報をいち早く収集し、利用者...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

利用者調査結果

▼調査概要

▼調査結果全体のコメント

▼調査結果

平成19年度

知的障害者入所更生施設[経過措置]

事業所名称	都学園
評価機関名称	特定非営利活動法人 医師団が支える在宅ケア推進ネットワーク
利用者調査実施期間	2007年5月7日～2007年5月10日

調査概要

- **調査対象**: 利用者70名(男性54%、女性46%)のうち、男性18名、女性22名に実施した。年齢構成は60歳以上43%、50～60歳30%、その他27%。入所期間は20年以上78%、10～20年13%、その他9%。また、愛の手帳は3度58%、2度20%であった。
- **調査方法**: 聞き取り方式
施設側に事前の説明と意思疎通が可能な利用者を選んで頂き、日中活動の妨げにならないよう職員の誘導等の協力を得て、会議室で他の人に聞かれないように配慮しつつ1対1で聞き取りを行った。また、見学や昼食と一緒に摂るなどして意思の疎通を図りながら実施した。
- 利用者総数: 70人
- 共通評価項目による調査対象者数: 40人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 40人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 57.1%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

利用者の総合的な感想では、約73%の方が大変満足(25%)、満足(48%)と回答している。特に「食事の時間は楽しいですか」や「活動は楽しいですか」の項目では90%以上の方が「はい」と回答している。利用者は適性に応じて班別による活動(施設外活動に向けた各種の作業活動や園芸、縫製、農作業等)に従事するとともに陶芸、料理教室、劇・音楽鑑賞、ボーリング、カラオケなどで余暇を楽しんでおり、日常生活は概ね満足している様子がうかがえる。職員の接遇態度(援助、相談、言葉使い等)は、困った時に助けてもらった、よく相談にのってもらっている、大切にしてくれる、丁寧等の声もあったが、云うことをやってくれない、時に気に障ることがある等の話もあり「はい」と答えた方は75%であった。また、居室がもう少し広いといい、外出を多くして欲しい、毎日お風呂に入りたい、温泉に行きたい等の意見もあって、結構のびのびした日常生活を送っているように見受けられた。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 食事の時間は楽しみになっているか

はい	39人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

聞き取りをした利用者のうち1人をのぞいておいしい、楽しいとの回答であった。厨房では法人傘下の事業所の食事を一括調理し、併設施設の利用者が大食堂に集まって食事をしている。また、個別支援計画から食事調整が行われ配膳されている。選択メニューも多く、CDの流れる食堂で食事を摂っている。配膳を行っている利用者もあり、配膳係りを希望している人もいる。味が薄いとの話もあったが、大勢いてみんな一緒に話をしながら食事ができるので楽しいとの声が聞かれた。

2. 日常生活には自由度があるか

はい	31人	どちらともいえない	8人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

趣味やクラブ活動などみな好きなことができると話している。好きなことができる時間が少ないという声もあるが、テレビ

をみる、職員とキャッチボールをする、編み物、刺繍、音楽を聴く、花作りをしている、お茶が楽しいなど利用者はそれぞれに自分のやりたいことを見つけて過ごしていることがうかがえる。

3. 活動は楽しいか

はい	37人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

利用者はみな何らかのクラブ活動に参加している。施設側も利用者の希望を取り入れて運動会、お祭り、レクリエーション、外出などの行事や趣味活動等いろいろなプログラムを用意しており、利用者は楽しく参加していることがうかがえる。授産(作業)活動、パン作りが楽しい、焼き物が好き、縫製をやっている、農作業でチューリップやスイカの植え替えをやるなど身を乗り出して話してくれた。特に、太鼓やハンドベルの稽古をして近隣の老人ホームへ慰安に行ったことに満足しており、また行きたいとの声が複数きかれた。

4. 利用者は必要なときに支援を受けているか

はい	30人	どちらともいえない	7人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

相談によくのってもらっている、いろいろ話を聞いてくれる、助けてくれる、職員とはうまくやっているなどの声が多かったが、頑張らないといけないよと云われて励みになっているとの話もあった。云うことやってくれない、職員が忙しいと助けてくれない、しつこいのはイヤだ、職員は好きでない、困ったことがないのかわからないなどの話も聞かれた。

5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	29人	どちらともいえない	5人	いいえ	3人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

職員は気をつかってくれる、守ってくれている、(入所期間が長いので)自分(利用者)のことを(職員は)よく知っていてくれるとの声が多かったが、1室に3人で生活しているので隠すことはない、人(職員)による、話したことが他の人(職員)に知られたことがあった、わからないとの声も聞かれた。

6. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	30人	どちらともいえない	8人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

普通だと思う、大切にしてくれている、(長く居るので)よく知っていてやさしくしてくれる、やさしい気持ちで接してくれる、やさしい言葉を掛けてくれるなどの声が多かった。本当はやっていたかったが(歳だからといって)担当をはずされてさびしい、つめたい(職員が)人がいる、全部の職員が大切にしてくれているかわからないとの話もあった。

7. 職員の対応は丁寧か

はい	29人	どちらともいえない	7人	いいえ	3人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

やさしく言葉を掛けてくれる、親切、やさしい、何かと気づかってくれる、若い職員さんも丁寧、きちんとした言葉使いである、丁寧でも乱暴でもないなどの声が聞かれたが、言うことを聞かない時に怒る、時には気に障ることはある、二度三度注意されると頭にくる、なかには言葉使いが乱暴な職員がいるとの話もあった。

8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか

はい	30人	どちらともいえない	3人	いいえ	2人	無回答・非該当	5人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

聞いてくれる、すぐやってくれる、相談しながらやっている、話をしてやりたいことをやる、云えば聞いてくれる、云わなくても次のことを準備してくれるなどの声のほかに、やることは一方的との話もあった。施設側が頻繁に利用者個別に聞き取りを行い個別計画に反映させていることがうかがえるが、目標や計画をつくるということが理解できない態度もみられた。

9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】
個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか

はい	21人	どちらともいえない	3人	いいえ	3人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

しっかり説明してくれた、わかりやすく話してくれた、よくわかった、やさしく話してくれたという話が多かったが、むずかしかったとの声も聞かれた。利用者はみな説明を受けているようだが、目標や計画という言葉には戸惑いが見られた。

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】
サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

11. 不満や要望を事業所(施設)に言いやすいか

はい	27人	どちらともいえない	4人	いいえ	7人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

云いやすい、云える、何でも云える、気持ち易く話せる、やりたいことは希望してやっている、自分のことは言いやすいなどの話が多かったが、云いにくい、聞いてくれる人(職員)もいるが聞いてくれない人もいる、職員によって違う、聞いてくれない、無いので云うことがないなどの声もある。云うことにためらいがうかがえた。

12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

--	--	--	--	--	--	--	--

はい	27人	どちらともいえない	4人	いいえ	3人	無回答・非該当	6人
【コメント】 相談ごとやってくれる、聞いてくれてよく対応してもらっている、やってくれる、思いやりがあるなどの話があるが、対応してくれる時もあるがないときもある、その時々都合によって違う、云うことがないから云ったことがないなどの声もあったが無表情の態度もみられた。							

13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか							
はい	20人	どちらともいえない	3人	いいえ	12人	無回答・非該当	5人
【コメント】 オンブズマンが来る、福祉事務所の人が来る、前に来ていたことがあるなどの話があったが、知らない(知らなかった)、聞いていない、いまのところ必要ない、相談したことはないなどの声も聞かれた。施設側ではオンブズマンの来園予定を生活棟の入り口に掲示しているが、どんなときに利用するのか、相談できるのかの自覚が乏しく、関心が薄いようであった。							

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
 【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

リーダーシップと意思決定

講評

- ① 目指す理念・ビジョンは事務所をはじめ各所に明示されている。
理念・方針は、19年度社会福祉法人大平台会事業計画並びに都学園平成19年度援助計画に基本方針及び理念として明記されている。さらに経営ビジョンが運営方針として明示されている。
- ② 経営者のリーダーシップと率先垂範が確実に発揮されている。
施設長をはじめ、経営者層の強いリーダーシップとその役割と責任を全うする意思表示が、年次事業計画書や職員会議、主任会議、毎日の朝礼などの議事録に明瞭に記載され、職員が一丸となって理念・基本方針に対する認識を深めていることが見受けられる。
- ③ さらなる重要案件の明確な周知決定が望まれる。
重要案件は法人内園長会等で協議・決定され、その内容や決定過程の説明は、職員へは口頭や文書で、利用者や家族には、パンフレット、園便りなどで行われているが、必ずしも周知徹底しているとはいえないところがある。協議・決定までの過程をより明確に説明し、理解と周知に努めることが有効と思われる。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	☐ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	☐ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	☐ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	☐ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	B
標準項目	☐ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	☒ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	☐ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報



経営における社会的責任

講評

- ①福祉サービスの理念と責任範囲は明確に表示されている。
法人としての使命、即ち、6項目の経営理念及び職員の倫理要綱の5か条が明記された抄書が事務所をはじめ各3箇所の寮職員室に表示されている。ここには福祉サービスに従事する者の規範、倫理の理解を深めようとしていることとともに推進しようとする心構えが感じられる。
- ②地域社会に対する連携で、施設の専門性と機能をより有効に使い、参画することが望まれる。
法人内の職員が、毎週1回焼き物教室を開くなど施設設備を公開している。しかし、長年にわたり養われてきた障害者対応のノウハウ、重点施策実施、自立支援法の推進に向けた企画等の取り組みなど施設独自の専門的で指導可能な知識と情報を地域社会へ貢献できるよう積極的に支援、行動されることが望まれる。
- ③ボランティアの受け入れ体制は概ね整備されている。
主任格の専門担当者が責任を持って受け入れており、万全を期している。オリエンテーションから始まり実習プログラム、個人情報保護まで、実習生の立場で対応しているが人数の増加などの成果につながっていない。今後は職員全員が共通認識のもと、より一層の施設の開放やPR体制を整えられることが望まれる。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評価	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評価	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評価	B	
標準項目	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	×	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み		

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評価	A	
標準項目	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評価	B	
----	---	--

標準項目		地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
		地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報



利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

講評

① 苦情解決制度が整備され、その取り組みが行われている。

苦情相談担当者のカラーの顔写真が添付された印刷物が各職員室前の壁に張り出されており、利用者が誰に相談すればいいのかが一目瞭然となっている。また、苦情相談の記録簿があり、オンブズマンの来園もあり、積極的な対応がなされている。

② 利用者意向の把握と分析・活用が望まれる

嗜好調査など実施されているが、利用者一人ひとりの意向、問題の把握、取りまとめが不十分と見受けられた。利用者への聞き取り調査からも利用者自ら話をするのに遠慮しているところがあるため、利用者とは一番接触機会が多い担当職員の情報収集だけでなく、組織的にその収集、分析、対応、活用が望まれる。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A	
標準項目	○	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	○	利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	○	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	×	事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	×	利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A	
標準項目	○	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
	○	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
	○	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

計画の策定と着実な実行

講 評

①実践的な事業計画が策定されている。

19年度事業計画書の中で、主要目標として3～5年間の戦略的目標が明記されている。ここにはⅠ施設管理からⅡ職員研修まで詳細に書かれており、具体的目標が策定されている。例えばⅠ施設管理では、Ⅰ日常生活機能の把握に努めるⅡ指導援助Ⅲ個別支援計画の推進Ⅳ給食・自家生産食品の有効な利用等、施設オリジナルで実践的目標で理解しやすくなっている。

②利用者本位の安全性への取り組みが新しい安心を生んでいる。

現在、防火訓練は消防署と定期的に行っており、また、ノロウイルス対策も実践されている。本年にも移行する新施設はバリアフリーやオール電化に設計されており、より一層の安全が確保されるであろう。

③リスクマネジメント対応の強化が望まれる。

利用者の安全確保、一般的リスクに対する管理は行われているが、一歩踏み込んで、経営上想定されるリスクの見直し分析が必要と思われる。事故報告書で確認するだけでなく、事故を把握・分析し計画に反映していくことが重要であり、想定されるリスクをより正確に確認し、強い対応法を考えることが望まれる。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A+
標準項目	○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○ 年度単位の計画を策定している
	○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	食堂の入り口に「アイスコーヒー始めました」と書いた張り紙があった。土・日曜日に開く購買部が管理するミニショップのPRであり、利用者がここで自分のお金を使って自由に喫茶し、買い物をすることを楽しみにしているとのこと。利用者が社会復帰の際、模擬的とはいえ非常に大切な試みであり、利用者の関心も高い。法人の自立支援の一環として長年実施されている活動であり、中長期の計画策定にも折り込まれている。今後、より大きな成果が期待できる。

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	B
標準項目	○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	✕ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み	

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	B
標準項目	○ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	✕ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	✕ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み	

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A

標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

職員と組織の能力向上

講評

①職員像と人事制度と人員配置を配慮した組織力と運営力のバランスの良さがうかがえる。
人事制度は新人研修で説明されており、また、新人研修繰りにも明記されている。人材採用、人員配置も法人内の4園長の合議により検討、適所に最適配置を心掛けている。職員に対する期待と現場に対応する能力の差を、施設長のリーダーシップでバランスよく実践されている。また、実習生や地元短大等に定期的採用を依頼して、組織の強化と経営の安定に努力が見られる。

②人材育成・研修参加の職員の質向上への積極的な方針が顕著に見られる。
本年度より職員の希望を考慮し勤務日程の変更、研修参加計画の調整など積極的に人材教育に力を入れており、寮責任者を中心に参加させているが、研修成果のフォローの取り組みが弱いように見受けられる。なお、福祉士などの資格等を取得した場合、昇格・昇給が実施されており職員の資格取得への関心は高い。

③職員の力を組織に発揮させるためのシステムがある。
随時に園内研究発表会があり、職員の日頃の気づきや工夫がレポートや発表でなされ、成果を共有するシステムはできている。ここで職員間の意見交換が行われており、職員自身からの変革意識の高まりが期待される。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A	
標準項目	○	事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○	事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	○	適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	○	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	×	職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	○	個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	○	職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	×	職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み		

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○	職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み		

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

情報の保護・共有

講 評

①情報の重要性と機密性のアセスメント分析がなされている。
情報の分類は本部事務局で行なわれ、その重要性と機密性はここで統括されている。事務所（室）での保管状況は年度別、機関別に整理され、開示請求は運営規定に明示されており、開示は限定され、事務局の厳しい管理が見られる。

②福祉サービスの「個人情報保護法」ガイドラインを明示している。
一般職員の「個人情報保護法」に関する対応は運営規定及び就業規則に明示されている。これは福祉・医療介護のガイドラインに準じており、実習生にも適応され、マニュアルに記載されている。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A
標準項目	○ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○ 開示請求に対する対応方法を明示している
	○ 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評価の見方

福祉サービス第三者評価情報

カテゴリー1～7に関する活動成果

8-1-1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1：「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2：「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4：「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	施設の老朽化による新施設の建設が進行中（平成20年4月完成）である。これを契機に、事業所が目指している運営方針・課題の明確化、職員の行動管理目標（倫理）の徹底など具体的に語られている（年間支援計画、経営層業務日誌）。職員からも事業所が目指す方向性が昨年より理解できるようになったという意見がある。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5：「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	障害者自立支援法の完全施行に向けた勉強会が開催され、職員全員に自立支援に関する説明会資料が配布され、また、園内研究会においても研究発表が行われ、職員のレベルアップが行われたことが確認された。 法人内4施設長の合議による適材適所への配置が行なわれだし、利用者への対応が安定してきたという意見もあり、職員も少しずつ新しいことを取り入れようという意識が出てきている。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6：「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7：「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	今年度よりパソコンソフトを導入し、利用者管理システムが稼動した。 各職員事務室でのPCにより個人別アセスメント結果及びサービス経過、対処処置等がインプットされ、担当職員がその情報を共有することが可能となっている。これ等の情報からサービスの一元化が進められ、また、利用者一人ひとりの状況に応じた支援が行なわれるようになった。 また、利用者の個人情報が入力されたパソコンで集中管理されるようになり、職員の個人IDが設定された。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善に向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	各種行事等の超勤手当の見直しや給食材料購入時期の調整等により、出費を極力控えたとの報告がある。 支出総額は前年比減となっている。特に前年度と比較して収入減にもかかわらず、事業費支出はそれ以上の減少となり、かなりの成果があった。改善にかなりの努力されたことがうかがえる。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリー3：「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	
----	--

	A
改善の成果	利用者の日中活動の一環として、パン教室の開設や太鼓・ハンドベルの稽古、老人ホームへの慰問等を積極的に行っており、多数の利用者が積極的に参加している。また、利用者の希望を聞き入れて募参りの日帰り帰省を試みた結果が、利用者の日常生活にも変化があり、全体に明るくなっているなどの成果が出ている。このことは生活日誌などから確認できる。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
 【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

[評点の見方](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#)



サービス情報の提供

講 評

①都学園のサービス情報は、ホームページ・パンフレット・広報誌を通して提供されている。年3回作成・配布されている法人の広報誌「太平台」は利用者の家族をはじめ行政機関や関係機関に配布されている。法人（施設）は常時ホームページの更新を行っており、積極的に情報の開示を行っている。

②ホームページでは、法人をはじめ施設の運営方針・施設の目的、班別作業、クラブ活動、各種行事等の日常生活の支援の様子が写真入りで、わかりやすく紹介されている。さらに、週1～2回の間隔で写真も取り入れた日々の生活の様子を伝えるブログの掲載がなされている。施設での日々の出来事や利用者の様子がダイレクトに伝えられ、より良い情報提供になっている。

③施設の利用を目的とする電話の問合せや見学は随時受け付けており、施設長もしくは支援現場の責任者が対応している。施設全体の案内、事業内容、日常の活動やこれまでに行なわれたレクリエーションの写真が多く飾られており、見学者が理解しやすいよう配慮され、また、サービス内容（プログラム等）の説明が丁寧に行われている。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

サービスの開始・終了時の対応

講 評

①希望者には、入居前に希望の日数や回数（施設の予定とすり合わせのうえ）の体験入居を行い、本人が納得してからのサービス利用開始としている。サービス開始にあたっては、所定の重要事項説明書により利用者と家族に説明している。法改正に伴うサービス内容の変更等については、家族会や広報誌「太平台」を通じて説明し同意を得ている。

②利用開始直後の1ヶ月間は重点的に観察期間としている。特に利用開始後1週間は、個別支援記録を詳しく記入することにより食事・排泄・入浴等の日常生活動作や嗜好などの利用者の状況把握に努めている。また、本人の興味を示す班活動やクラブ活動への参加を誘いながら、利用者担当職員が主に環境変化によるストレスや不安を軽減し、施設内での生活に徐々になじむように支援している。

③高齢での疾病により老人保健施設等、他施設への移行にあたっては、利用者本人や家族への情報提供を行い、不安の軽減に努めている。また、移行先施設の担当者に、施設での生活状況や嗜好等の情報提供により十分な引継ぎを行い、より良い支援の継続にも努めている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

個別状況に応じた計画策定・記録

講評

①今年度よりアセスメント用パソコンソフトを導入し、利用者個人の心身の状態や生活状況などの記入を行い、フェイスシート・アセスメントシート・個別支援計画への一連の様式が整備された。原則として個別支援計画は、担当者・利用者・家族の参加により、6ヶ月毎に行われるケース会議により見直しと変更がなされているが、必要に応じて適宜見直しを行い、常に利用者個人の状況に応じた支援計画につなげている。ルビつきで分かりやすい個別支援計画は利用者に理解しやすいものとなっている。

②利用者の日々の活動状況や生活の様子は生活宿直日誌や個別支援記録に記載されている。利用者個別の排泄記録、ケース会議録などの各種記録もパソコン入力により記録されている。宿直担当職員は主に生活宿直日誌を記録し、個別支援計画に沿った支援による利用者の状態の推移は個別支援記録に各利用者担当職員によりきめ細かく記録されている。

③毎朝の職員朝会は、座席して行い、落ち着いた雰囲気の中でしっかりと申し送られている。前日の宿直担当職員により、日中および夜間の利用者の生活情報や特に申し送るべき変化のあった利用者の言動・それに対処した職員の支援の様子が細かく報告され、利用者の情報共有の基となっている。また、ケース会議録は全員が目を通してしているので、担当利用者以外の利用者の様子も全職員に共有化される仕組みがとられている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	○ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	○ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	○ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	○ 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	○ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある
	○ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

--	--

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講 評

①事業所の個人情報保護方針が法人のホームページに掲載されている。また、ホームページや広報誌への写真掲載など外部への情報提供等プライバシーの保護に関しては、契約時に基本方針を説明し、利用者や家族の同意を得ている。写真などの掲載については、その都度承諾を得ており、プライバシーの保護には細心の注意を払っている。

②日常の支援においては、同性支援を行い、高齢によりポータブルトイレの利用者には衝立やカーテン使用がなされている。職員の倫理は就業規則や運営規定に明示され、さらに「4脱4禁」という職員の言動と接遇態度に関する8つの標語を作成し各生活棟内に掲示し・徹底する工夫がなされている。

③日々の班活動やクラブ活動の当日の変更・希望や、まれに静かな中での食事を言い出し食堂での食事を拒否するなどの利用者にはその日の状態に合わせた対応をする等、利用者の拒否や要望を受け入れている。名前は“さん”付で呼び、また、高齢利用者の生活ベースを考慮した日課等、個人の尊厳を尊重する支援が行なわれている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	○ 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている ○ 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い、利用者のプライベートな空間への出入り等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している ○ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	○ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている) ○ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している ○ 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている ○ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方

福祉サービス第三者評価情報

事業所業務の標準化

講 評

- ①各種のマニュアルは、各寮の職員室に常備され活用されている。各寮の業務マニュアルは職員や利用者の意見を聞いたうえで寮の責任者により作成され、年度替わりに定期見直しを行なうが、必要に応じ寮別職員会議で見直し検討されている。また、職員のサービス業務についての確認は、現在は施設長や寮の責任者により行なわれている。
- ②職員の資質向上のため、外部研修参加や資格取得を積極的に薦めている。ただ、外部研修は受講対象者が限定してしまうもの（施設において責任ある者など）が多く、参加者に偏りがみられる。職員の向学意欲の強さが職員回収シートよりうかがえるし、経営層もサービスに関する研修の必要性を認識しているので、さらなるレベルアップへの取り組みが期待される。
- ③ヒヤリ・ハット事例や事故事例は、事故防止委員会で検討されている。検討内容・今後の対策を全職員に周知・徹底し、マニュアルや個別支援計画の見直し・変更をすることにより、全職員が安全性に配慮した支援を行なっている。利用者の高齢化に伴い、高齢利用者の心身状態に注目した居室の配置や頻繁な巡回・声掛け、車いすへの移乗・移動のマニュアル作成、階段歩行時のマンツーマン対応などが行なわれている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	B
標準項目	○ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている × 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している ○ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	B
標準項目	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている × 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	○ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている ○ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している ○ 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている ○ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している ○ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み	

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス:fukushiit@fukushizaidan.jp 電話:03-5206-8733

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方

福祉サービス第三者評価情報



サービスの実施

1. 個別の支援計画をいかしながら、利用者に合った自立（自律）生活を送るための支援を行っている

講 評

①個別支援計画に基づいた支援がなされていることが、個別支援記録・生活宿直日誌に記録されている。利用者の健康状態と安全に配慮し、より良いコミュニケーションをとるために「利用者と接する機会を多くするように努める」「日常的な会話の中での観察や顔色から、その時々の利用者の状態把握に努める」ことに留意しながら職員が対応している。

②寮内に連絡事項や手洗い手順等の情報が写真入りやルビつきで掲示されている。買い物などの外出時などには様々な体験と情報に接できるよう図られ、自立に向けた支援が行なわれている。また、空き職員寮を利用しての夜間のみの宿泊、生活体験の支援を行ったり、一部の利用者には小遣い帳の記入による金銭管理の方法の支援を行なっている。また、法人による利用者の社会体験参加費用を予算化し、自立に向けた支援は賞賛できる。

③対人関係のアドバイスは、利用者間にトラブルが起きた場合や必要に応じて行なうのは勿論のこと、夜の集合の時間を利用してお茶を飲みながら穏やかな気持ちのときに、人との付き合い方を話し支援している様子が宿直日誌や個別支援記録に記録されている。

評点	A ⁺
標準項目	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	自立生活に必要なさまざまな情報をわかりやすい方法で提供している
	必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
	日常の金銭管理については、自己管理できるよう支援をしている
A+の取り組み	・法人開設時より続けられている取り組みとして、「自分の意思で自分らしく生きることができるように利用者の主体性を重んじる」の理念の基に、利用者の外出時社会体験参加費用を毎年予算計上している。利用者にとって大きな楽しみの一つである外出時費用の一部として使われる。地域商業施設等において自分の意思でする買い物代金などで自立に向けた支援を行なっている。財政状態の変化があっても、削ることなく利用者の自立と楽しみを第一とする支援が連続と続けられていることは賞賛される。

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

①日中活動は個別の支援計画に基づき、利用者の特性に応じ8つの作業班の活動や多種類のクラブ活動が用意されている。活動メニューの選択は利用者の希望を第一に特性や体調により決定されるが、時には利用者の希望により他の班の体験ができる配慮もなされている。利用者調査の聞き取り時には、ほぼ全員の利用者が班活動やクラブ活動の様子を生き生きと楽しそうに話されていたことから、一人ひとりの利用者にあった支援が行なわれていることがうかがえる。

②利用者の高齢化に伴い、活動環境に配慮した支援がなされている。作業班の一つは、比較的年齢の高い方々で作業をしている。寮から作業を行う別棟への移動は階段が多いため、移動せずに寮内で行なえる作業をしている。例えば、バザーに出品している手作りローソク等の作業を行い利用者個々の興味や生きがいにつながるような取り組みがなされている。また、食堂へ続く長い外階段には手すりや屋根が設置され、通路には転倒時にケガ防止のマットが敷き詰められており、日常生活の環境整備がなされている。

③施設内での様々な活動の他にも、施設外での利用者の活動の場も多く取り入れている。食品や事務関連の職場実習に取り組み、自立・職場体験に向けた支援を行っている。市のパン教室へ参加し、パンを焼く設備を借り切ったパン焼き、温水プールの利用、食品工場への見学等による利用者の個別ニーズに応じた支援が行なわれている。

評点	A
----	---

標準項目	○	活動メニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	○	利用者が活動しやすい環境を整えている
	○	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

①利用者や職員の希望をもとに、隣接する同法人の他施設の3人の栄養士と連携し、相談・交替で献立を作成することにより、健康を保ち飽きのこない食事の提供がなされている。また、選択メニューを昼食時に提供し、利用者の楽しみとなっている。班活動により収穫された新鮮な野菜を材料に使用しており、利用者聞き取りの際にも多くの利用者から「おいしい」との声が聞かれた。

②食事の時間は決まっているが、食べるのが遅めの人や食の細い人は、他の人より早めに席につき食事を始められるよう支援を行なっている。また、利用者の健康状態に配慮した制限（減塩食・納豆）やご飯の量（3段階）、利用者の嗜好（カレーが苦手な人は同材料で煮物にするなど）により配膳され、利用者が無理なく自分にあった食事を楽しく食べている。

③「利用者と職員は家族のように」の思いのもと、配膳を利用者と職員が一緒に行なっている。職員が盛りつけた温かいご飯や味噌汁を当番の利用者が手際よくテーブルに配っていた。また、8～10人の利用者の間に1人ずつ職員も座って食事を摂っており、会話を交わしながら穏やかで楽しい食事環境を整えている。

評点	A	
標準項目	○	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○	利用者が選択できる食事を提供している
	○	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている

講 評

①日常生活での食事・排泄・衣類の着脱・口腔ケア・移動等の介助は、定期的なアセスメント・モニタリングにより、利用者一人ひとりの状況に応じた支援がなされるように取り組んでいる。利用者により排泄のチェック等の確認表を作成し記録することでリズムを把握したり、高齢や重度の利用者が寝たきりにならないようにマン・ツー・マン対応をとるなどの支援を行なっている。

②歯磨きチューブのしぼり出しや下着の交換・洗濯、私物整理、布団敷きなどの日常の身の回りのことは、自分でできることは自分で行えるように会話しながら支援している。また、車イスの利用者や階段の昇降時に介助を要するなどの利用者には、安全に十分な配慮をしつつ過剰な支援にならないよう見守りながら支援している。

評点	A	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

①年2回の定期健康診断、年1回の歯科検診、月に一度の内科の来園診察、定期通院を実施し、利用者の健康維

持に努めている。毎朝2名の看護師による巡視・確認により、利用者の健康維持増進と疾患予防の取り組みがなされている。毎月行なわれている保護者会では、利用者の健康状態が説明されるとともに、看護師による酸素蘇生器やAED（自動体外式除菌動器）の取り扱い方や説明講習の企画・実施により健康に関する支援の取り組みがなされている。

②服薬管理は看護師が行い、その日の担当職員により投与されている。投薬確認表には投薬する薬を写真で示すと共に利用者の名前を明記した用紙の添付と利用者による薬の投薬方法の違い（袋の開封の有無・手渡しもしくは服薬確認等）が記入され、飲み忘れや誤薬防止の徹底に努めている。

③各寮の宿直職員の他に、隣接する法人管理事務所にも管理宿直者が配置されており、夜間緊急時には管理宿直者が中心となり素早く冷静な判断のもと適切な対応ができる体制となっている。また、600メートル離れた第二都学園との連携対応も組織化されている。看護師も宿直に加わっているほか、リーダー層の職員をはじめ数名の職員が救急救命士の資格を取得している。

評点	A
標準項目	健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
	利用者の体調変化（発作等の急変を含む）に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

①年間の行事として、お花見・太平台祭り・秋季大運動会・餅つき・節分・家族旅行・クリスマスパーティなど季節に応じた行事が実施されている。その他観劇や食品工場見学・設備を借りてのパン焼き・温水プール等に出出し、利用者の多様な体験を支援している。

②毎週月曜日のクラブ活動は、和太鼓・ハンドベル演奏・卓球・自然環境の良さを活かしての郊外散歩・フライングディスク・写真・手芸など数多く、利用者の希望に沿った取り組みが行なわれている。なかでも和太鼓やハンドベル演奏は地域の芸能祭での演奏や老人ホームへの慰問時に披露し、利用者のやる気と自信に結びついている。

③お祭りや運動会には利用者の意見を取り入れ、その意見に沿った形で実施できるよう企画されている。準備には利用者も楽しみながら参加している。以前は定期的に行われていた対話集会が、多人数の集会を苦手とする利用者の声があって、今は夜の集合時間に意見を聞く仕組みとなっている。

評点	A
標準項目	行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	日常生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
	利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
	行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

①利用者本人の希望により、日帰り帰省が実施され好評である。また、寮内に公衆電話が設置されており、購買部で購入したテレホンカードを使って自由に家族と電話で話せるよう支援が行なわれている。

②利用者の日常の様子や施設の現況は、年3回発行される広報誌「太平台」や帰省時連絡簿により伝えられている。さらに、ホームページ内に寮のブログをはじめ、週1～2回のペースで写真を載せながらタイムリーに寮の状況や利用者の様子を伝えている。年度始めの総会・毎月第三日曜日に開催される保護者会には、利用者の情報伝達や家族の意向の聴取が行なわれている。保護者の高齢化に伴い、保護者の参加向上に向けた保護者会のあり方を模索しており、家族との意思疎通の活発化に取り組んでいる。

③毎年1回、利用者と職員の全員・利用者家族20～30名の参加による1泊旅行を行なっている。施設や帰省とは違った環境による開放感のもと、家族との交流や連携を深めている。保護者会では作業班の活動により丹精込めて作られた野菜や園外活動で作ったパンの販売が行なわれ、盛況のうちに完売されている。家族に利用者の活動をじかに感じて頂ける温かい心の交流の場の提供となっている。

評点	A
標準項目	家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

①現在2名の利用者が、地元の食品関係の作業など施設外実習をしている。また、敷地内の空き職員寮を利用して5名の利用者が夜間のみ生活をしている。これらの取り組みにより、徐々に自立に向けての意欲を高めることを目指した支援が行なわれている。

②職員の9割が施設の所在地である地元の出身で、地域の情報をいち早く収集し、利用者の状況に応じて対応している。地元主催のパン作り教室への参加・設備を借りての利用者のみのパン作り実習も、職員が収集してきた情報より始められた。地元の温水プールの利用、地元の食品工場の見学に出かけるなど、利用者が多様な体験ができるように支援が行なわれている。

評点	A
標準項目	利用者が入所施設を退所して地域社会で生活できるよう計画的に支援している
	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)